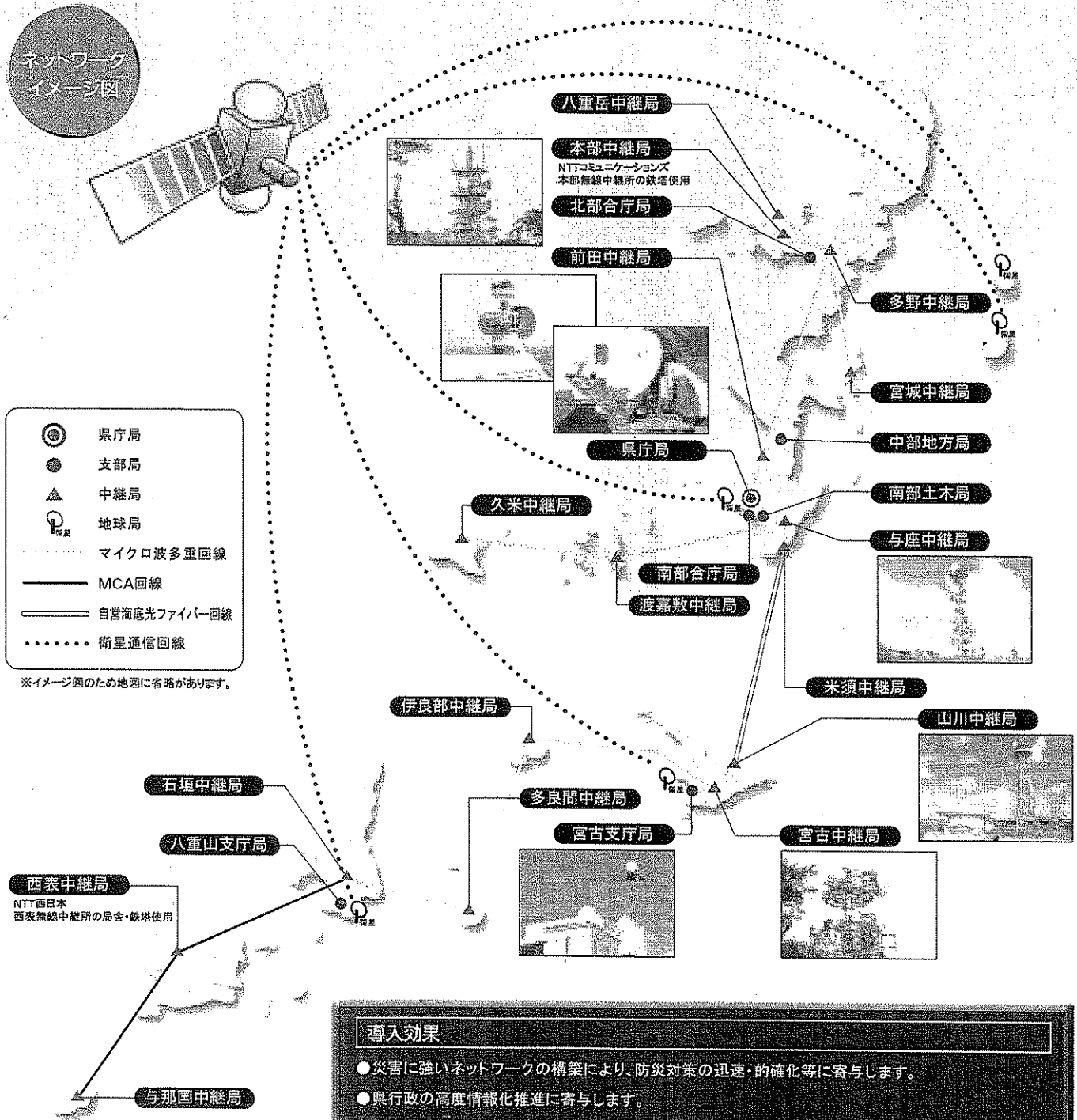


7 県の防災関係通信機器

(1) 沖縄県総合行政情報通信ネットワーク

無線系システム、有線系システム、衛星系システム、本島と先島諸島を結ぶ海底ケーブルで構成される「沖縄県総合行政情報通信ネットワーク」。県庁局と合庁局、先島諸島の支庁局などの支部局間は、それぞれ中継局、海底ケーブルを經由して多重無線回線で接続されています。また、県庁局と合庁局、地方局、土木局間には、大容量伝送が可能な光ファイバーも敷設されています。南大東村局、北大東村局、八重山支庁局、宮古支庁局と県庁局は、衛星を使って情報の送受信を行っています。ATM装置を導入しているため、電話やデータ、映像送信時のみ回線を占有する接続方式となり回線の有効利用が図れる他、回線障害が発生しても自動的に正常回線に迂回します。

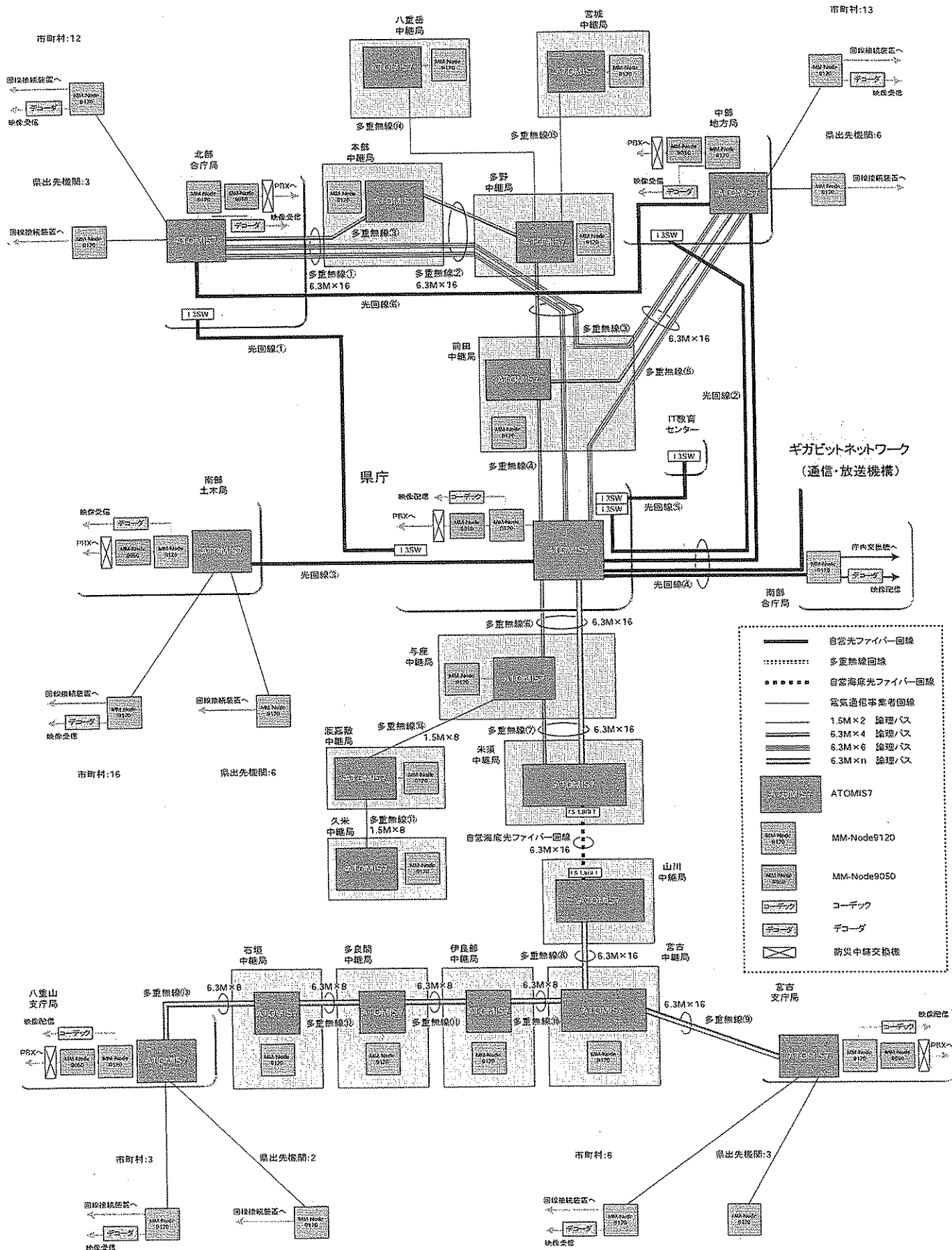


※イメージ図のため地図に省略があります。

導入効果

- 災害に強いネットワークの構築により、防災対策の迅速・的確化等に寄与します。
- 県行政の高度情報化推進に寄与します。
- 行政事務の効率化、行政サービスの向上、通信費の節減によるコスト削減効果等行財政改革の推進に寄与します。
- 全国の地域情報の受信や県内各地の地域情報を全国に向けて発信する等、地域の情報化と地域振興に寄与します。
- 県民への情報提供やネットワークを利用した情報交流が活発化し、地域活動の活性化に寄与します。
- マルチメディアアイランド構想を実現する通信インフラとしての活用を図ります。

ATMシステム図



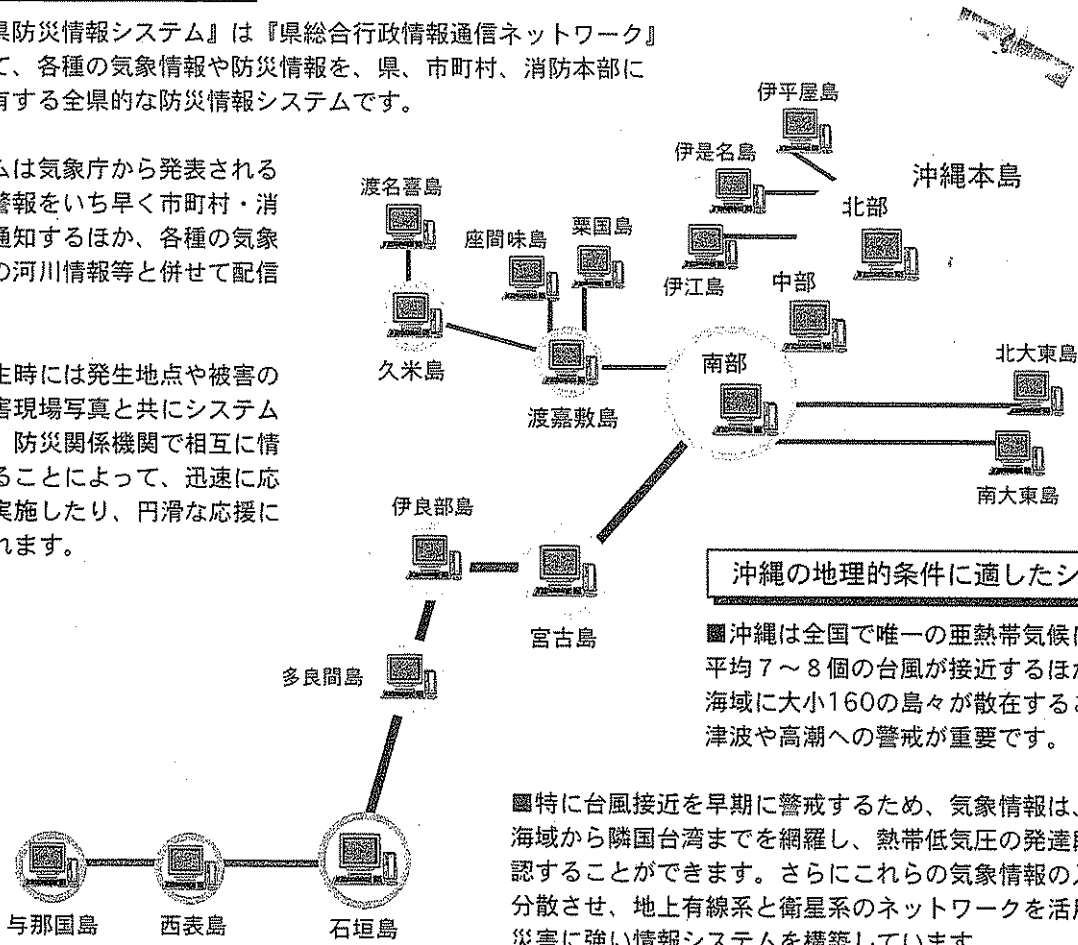
(2) 沖縄県防災情報システム

防災情報システムの役割

『沖縄県防災情報システム』は『県総合行政情報通信ネットワーク』を利用して、各種の気象情報や防災情報を、県、市町村、消防本部に配信、共有する全県的な防災情報システムです。

システムは気象庁から発表される注意報・警報をいち早く市町村・消防本部に通知するほか、各種の気象情報を県の河川情報等と併せて配信します。

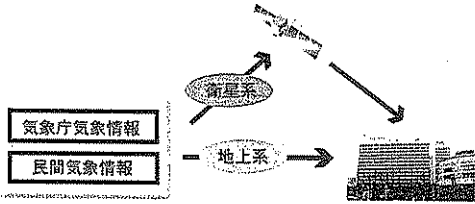
災害発生時には発生地点や被害の概略を災害現場写真と共にシステムに登録し、防災関係機関で相互に情報共有することによって、迅速に緊急対策を実施したり、円滑な応援に役立てられます。



沖縄の地理的条件に適したシステム

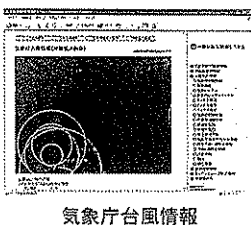
沖縄は全国で唯一の亜熱帯気候に属し、年平均7～8個の台風が接近するほか、広大な海域に大小160の島々が散在することから、津波や高潮への警戒が重要です。

特に台風接近を早期に警戒するため、気象情報は、沖縄南方海域から隣国台湾までを網羅し、熱帯低気圧の発達段階から確認することができます。さらにこれらの気象情報の入手経路を分散させ、地上有線系と衛星系のネットワークを活用するなど、災害に強い情報システムを構築しています。



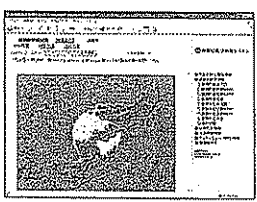
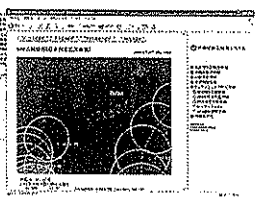
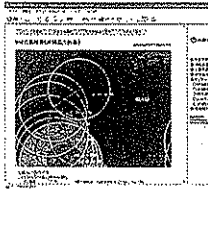
沖縄県防災情報システムの主な効果

● 詳細な気象情報により、的確な災害対応が行えます。



これまでの防災行政無線/FAXによる気象情報に比べ、多種多様な気象観測情報が入手できるようになりました。そしてこれらの情報を市町村・消防本部でも利用できるようになりました。

特に、台風になる前の熱帯低気圧の段階から接近を警戒し、気象庁レーダー観測画像を元に大雨に対する警戒を実施するなど、これまで以上に利便性が高まります。



システムイメージ図

